

従来の NGO 等による MSM に対する普及啓発の効果検証と新規感染者減を目的とした普及啓発の地域、集団、時期及び方法の検討

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科 国際保健看護学）

要旨

本研究では、日本国籍若年 MSM が多く来場する名古屋市無料 HIV 検査会受検者の社会、疫学的情報を明確化し、有効な普及啓発を検討することを目的とする。調査対象は、名古屋市無料 HIV 検査会に来場したものである。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により名古屋市無料検査会(以下検査会)が実施できなかったことから、過去の検査会の来場者の質問紙調査のデータの分析を行った。年齢群別に利用する出会いの場や情報入手ツールの利用状況の比較、生涯で初めて検査を受検したものの特性、検査受検理由の推移の比較を行った。検査会の情報を得た広報ツールとしては、20 歳代は SNS と出会い系アプリを挙げていた。20 歳代 MSM においては、アプリのみならず、SNS が性交渉の相手と知り合うツールとして浸透している。40 歳代以上においては、パートナーとの出会いの場としてハッテン場の利用を挙げるものが他の年齢より多かった。最も性行動が活発な 20 歳代に届く予防啓発、検査普及メッセージのアウトリーチのためには、近年活用が広がっている位置情報付きの出会いアプリ広告に加え SNS の活用は重要になることが考えられた。若者が利用する SNS コミュニティ内で影響力のある MSM から発信、またその情報を拡散する仕組みを活用することなど考案していく必要性が考えられた。

A. 研究目的

新規感染者数の抑制と早期診断のために、男性間で性的接触を行うもの、その他の層の実態を把握し、効果的な知識の普及啓発、検査の普及が重要となる。本研究では、日本国籍若年 MSM が多く来場する名古屋市無料 HIV 検査会受検者の社会、疫学的情報を明確化し、有効な普及啓発を検討することを目的とする。また最終的には、名古屋市無料 HIV 検査会の受検者動向の推移を見ることで啓発効果を検証する。

B. 研究方法

調査対象は、名古屋市無料 HIV 検査会に来場したものである。検査会では、会場にて、スタッフがアンケートへの協力を口頭にて依頼し、検査会場(採血前)にて、受検者に記入を依頼した。質問項目は、基礎属性、検査受検歴、性行動、性感染症の罹患経験、予防啓発の認知を含んでいる。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により名古屋市無料検査会(以下検査会)が実施できなかったことから、過去の検査会の来場者の質問紙調査のデータの分析を行った。初めて検査を受検したものの特性、受検理由の推移、年齢群別に利用する出会いの場や情報入手ツールの利用状況の比較を行った。

データの解析には SPSS-ver22.0 を用いた。統計学的有意水準は 5%を採用した。

なお、全ての研究計画は名古屋市立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会より承認を得たうえで実施した。

C. 研究結果

新型コロナウイルス感染症による検査件数の落ち込みは東海 4 県いずれの地域でも著しく、2009 年の新型インフルエンザパンデミック時や東日本大震災の影響による落ち込みをはるかに超す影響となっている(図 1-2 参照)。

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により名古屋市無料検査会(以下検査会)が実施できなかったことから、過去の検査会の来場者の質問紙調査のデータの分析を行った。

過去 6 か月に使用した施設は年齢により差があり、29 歳以下の若い年齢層は Twitter 等、位置情報付き出会い系アプリの過去 6 か月の利用経験が高い。一方で 40 歳以上ではハッテン場の利用が 20 歳代より高いことが示された(図 3)。また直近のセフレ・友達と出会った場所は、若い年齢層では Twitter 等の SNS アプリ、位置情報出会いアプリがあがっており、40 歳代以上では 38%が有料のハッテン場を挙げており、20 歳代より高かった。その場限りの相手と出会ったツールについても同様の結果であった(図 4-5)。

また検査会の生涯で初めて検査を受ける受検

者において、受検理由として「感染可能性がある」を挙げるものは年々減少傾向にあることが示された(図6)。

また生涯初めて受検したものにおける過去6か月の商業施設利用については、全体では位置情報付きアプリが最も多く、ゲイバー、有料ハッテン場多い。しかし有料ハッテン場の利用は減少の兆しもある。

D. 考察

年齢別の性行為相手の出会いのツールは異なる。若い層へのアプローチはアプリ、SNSの活用が重要であり、中高年はハッテン場、その他アプリも活用しており複合的なアプローチが有効と考えられた。SNSコミュニティ内で影響力のあるMSMから発信、またその情報を拡散する仕組みを活用することも重要と考える。

新型コロナウイルス感染症拡大において、飲食を伴う会食がリスクの場とされていることもあり従来の予防啓発の情報配布の基点としていたゲイバー、クラブは打撃を受けている。今後のHIV検査会の実施の可能性は不透明なところが多いが、若者へはTwitter InstagramといったSNSも活用し、コミュニティにおいて影響力を持つMSMから発信や拡散を狙った広報を行うこと、中高年は、口コミ、会員制バー、ハッテン場(最も大規模な施設は休業)での広報も重要と考えられた。

今後は名古屋医療センターの受診者群と検査会受検者データを症例対照研究として再分析、背景の比較を行い、より感染リスクがある層の背景を明確化し、有効な検査普及啓発への検討へとつなげる必要がある。

E. 結論

年代層により出会いの場は異なり、特にネットやアプリでの出会いは増加傾向にある。若者は、施設よりアプリを介した出会いが多い可能性が高い。今後、性行動の活発な20歳代MSMへ検査予防啓発の情報を届けるためにはアプリのみならずSNSの活用は重要となることが示された。

F. 研究発表

1. 論文発表

1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have

sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020. DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339

2) Ryohei Terao, Noriyo Kaneko (Equal contribution): Survey of School Nurses' Experiences of Providing Counselling on Sexual Orientation to High School Students in Japan. *International Journal of Adolescent Medicine and Health*, doi: 10.1515/ijamh-2019-0167. 2020.

3) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性のHIV・エイズの最新情報の認知度とHIV検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.

4) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とするHIV/AIDS予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者2名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.

5) 金子典代, 塩野徳史: MSMを対象にした当事者主体のHIV検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020

6) 今橋真弓, 金子典代, 高橋良介, 石田敏彦, 横幕能行: 名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果. *日本感染症学会誌*, 31(1), 2020. doi:10.24775/jjsti.S-2019-0003

2. 学会発表

1) 金子典代: U=Uをめぐる陽性者とHIV予防対策と医療者のあり方について. *日本エイズ学会シンポジウム*, 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB開催, 2020

2) 林田庸総, 柏木恵莉, 土屋亮人, 高野操, 青木孝弘, 鴻永博之, 菊池嘉, 岩橋恒太, 金子典代: 乾燥ろ紙血によるHIV Ag/Ab郵送検査の検査ラボでの結果についての検討. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB開催, 2020

3) 荒木順, 金子典代, 木南拓也, 柴田恵, 岩橋恒太, 藤原孝大, 鈴木敦大, 小山輝道, 高久道子, 高久陽介, 市川誠一, 張由紀夫, 生島嗣: ゲイバー等との連携による「LivingTogetherのど自慢」の実践とその効果について. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB開催, 2020

4) 井上洋士, 後藤大輔, 船石翔馬, 高橋良介, 塩野徳史, 金子典代: 成人前期(20歳代)MSMでの性行動とHIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第34回日本エイズ学会学術集

- 会・総会，WEB 開催，2020
- 5) 高橋良介、末盛慶、金子典代、石田敏彦：
NLGR+への参加状況と HIV 抗体検査受検経験
の関連性. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・
総会，WEB 開催，2020

図1

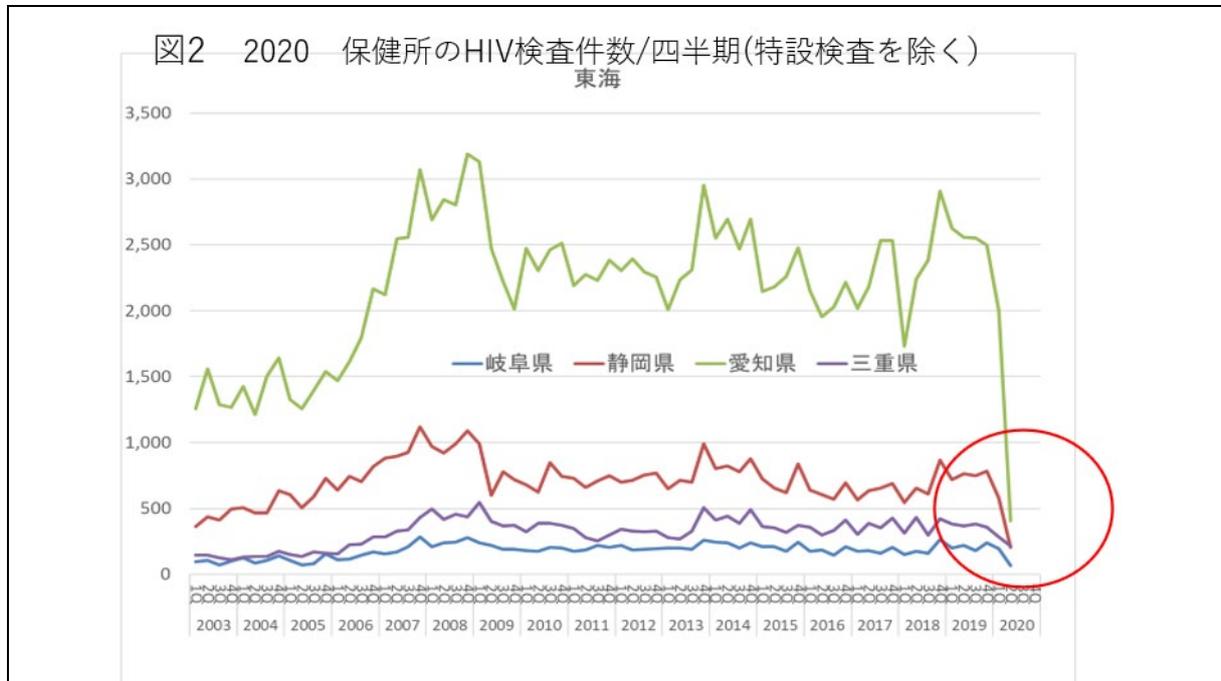
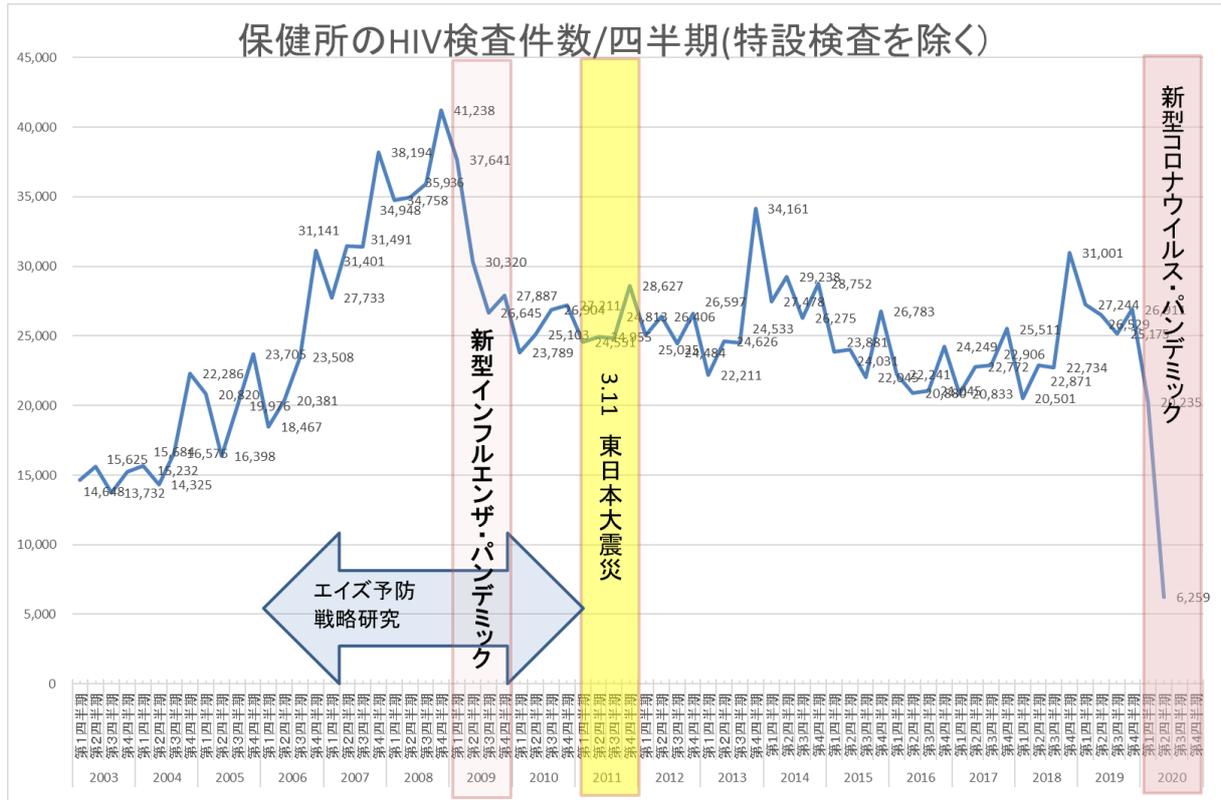
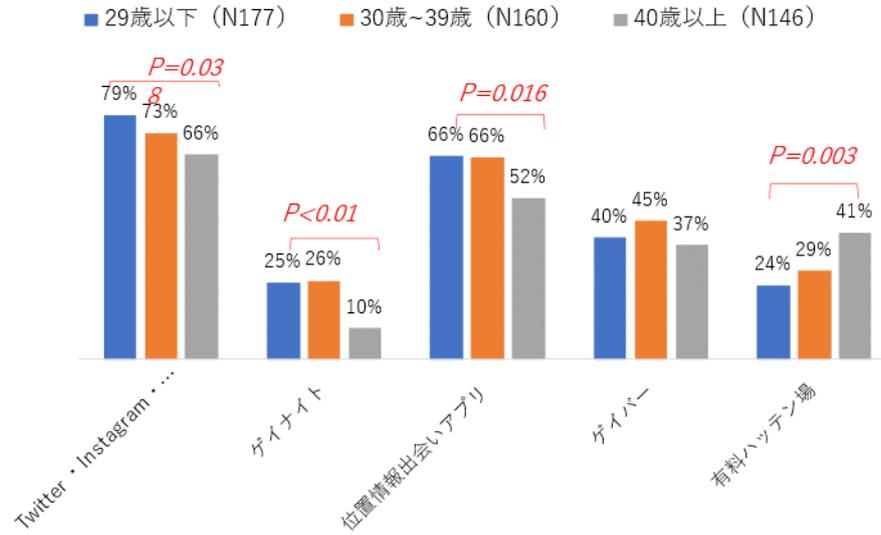
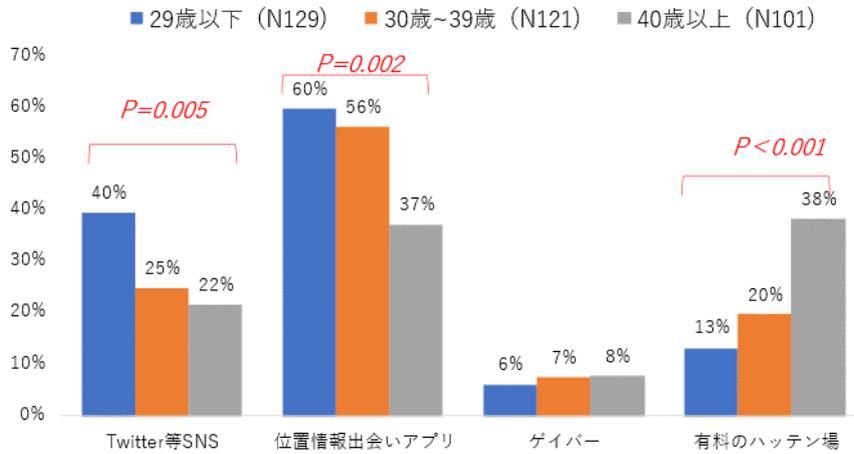


図3 過去6か月に**利用した**ゲイ向けサービス (MSMのみ N=483)



20歳代はアプリ、中高年はハッテン場が他年代より多い

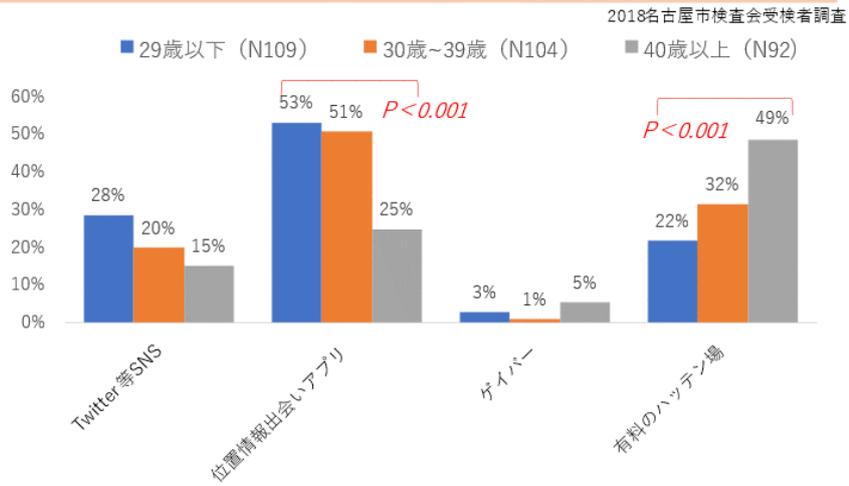
図4 過去6か月で直近のセフレ・友達と**出会った**ツール場所 (MSMのみ N=352)



セフレ 20歳代はアプリとSNS、中高年はハッテン場とアプリで出会っている

2018名古屋検査会受検者調査

図5 過去6か月で、直近の**その場限りの相手と出会ったツール場所**
(MSMのみ N=305)



その場限り相手 20歳代はアプリで出会い、中高年はハッテン場が主

図6 初受検者の検査受検理由

